

平成26年度土曜日の公開授業研究事業実施報告書

学校番号	40	学校名	県立静岡高等学校
対象課程・学科・学年		全日制の課程・普通科・全学年	

1 研究のねらい

- (1) 生徒の負担に配慮した実施日の適切な設定
- (2) 土曜オープンスクールの効果的な実施
- (3) 職員の勤務時間管理に配慮した校内体制の在り方

2 研究の概要

(1) 方策

前年度実施した生徒アンケートの結果、公欠者数などを踏まえ、本年度の行事予定の中で月2回(原則隔週)の実施日程を決定した。

○4時間を授業日とする土曜オープンスクールを年間17回実施する。

- ・年間行事予定の検討
- ・月2回程度の実施(4時間×17回=68時間(2単位相当)の授業時数を確保する。)
- ・公欠を極力少なくする授業日の設定
- ・生徒の疲労感を増長しないように、日曜日に全員が受験する模試が予定されている場合も避ける。
- ・土曜オープンスクールを組み入れた適切な時間割の編成

○中学生、保護者、地域等にかかれた学校づくりを目的に、公開授業を行う。

○生徒においては、土曜日に授業を行った4時間を、定期テスト実施日の午後等と振り替えた。

○土曜オープンスクールの実施日を、事前に年間行事予定に記載して在校生及びその保護者に示すとともに、学校ホームページに掲載して地域や中学生及びその保護者に公開する。

(2) 検証方法

検証に当たっては、公欠者数や学校関係者(生徒、保護者、教員、公開授業参加者、学校評議員など)によるアンケート結果、意見などを参考にする。

3 実施日程等

回	実施日程	生徒の振替休業日	実施内容
1	4月12日(土)	5月26日(月)午後	地域や保護者にかかれた学校づくりを目的に行う公開授業 *は特に中学生への公開日として体験入学の代替とする(9回)。
2	4月26日(土)	5月27日(火)午後	
3	*5月17日(土)	7月9日(水)午後	
4	*6月21日(土)	7月10日(木)午後	
5	*7月5日(土)	7月23日(水)	
6	7月12日(土)	7月24日(木)午後	
7	9月6日(土)	10月14日(火)午後	
8	*10月4日(土)	10月15日(水)午後	
9	*10月18日(土)	11月25日(火)午後/2年 12月3日(水)午後/1、3年	
10	*11月15日(土)	11月26日(水)午後/2年 12月4日(木)午後/1、3年	
11	*11月22日(土)	12月22日(月)	
12	*12月13日(土)	12月24日(水)午後	
13	12月20日(土)	1月16日(金)午後	
14	*1月10日(土)	2月5日(木)午後/1、2年 終日/3年	
15	1月24日(土)	3月3日(火)午後	
16	2月7日(土)	3月12日(木)	
17	2月21日(土)	3月19日(木)	

4 実施上留意した事項

- ・土曜オープンスクールを組み入れた適切な時間割の編成に留意した。
- ・土曜オープンスクールを実施するA週と実施しないB週の教科配分に偏りがないように時間割を編成した。また、情報及び体育は教員が出張となった時に自習とすることが難しいため、配置しなかった。
- ・公式試合の組まれる可能性の少ない時期に実施日を設定することで、公欠者数をより少なくしていくとともに、単位数の少ない科目を土曜日に配置しないようにした。

5 研究の成果

(1) 授業時間の確保

年間17回（月2回程度）の土曜オープンスクールの実施により、4時間×17回＝68時間（2単位相当）の授業時数を確保できた。

(2) 生徒の学習・生活リズムの確立

ア 学校の考察

月2回程度を上限として土曜オープンスクールを実施することにより、平日を65分×5限授業とし、放課後の有効活用を可能にした。平日の部活動終了時刻も遅くならず、生徒に「授業・放課後の部活動・家庭学習」の生活リズムを確立させやすい。

また、土曜オープンスクールの午後に教室や図書館で学習する生徒も見られるなど、学習の相乗効果も見られた。

イ 生徒、保護者、教員対象アンケートの分析

肯定的回答（「かなり当てはまる」及び「わりと当てはまる」）の割合は、次のとおりである。

※数字は、平成25年度→平成26年度の割合(%)の推移を示している。

	質問項目	生徒	保護者	教員
1	学習（授業）時間が確保されている	48→53	76→74	88→92
2	一週間の生活・学習のリズムが作りやすくなっている	39→45	65→66	75→67
3	土曜授業のある午後はゆったりできる	24→31	40→37	44→41
4	平日の放課後にゆとりがある	82→83	79→77	89→88
5	土曜授業の公欠が学習・授業の妨げになっている	30→31	28→32	81→72
6	生徒（教員）の心身の疲労の蓄積につながっている	64→61	30→32	35→31
7	週休日の部活動が制約されている	27→24	12→21	42→45
8	通塾や趣味等、自由に使える時間が制約されている	63→61	28→29	
9	週休日が変則的になり、心身のリフレッシュができない			46→51
10	勤務の振替が取りにくい			83→53

(3) 開かれた学校づくり

年間17回の土曜オープンスクールのすべてを公開としているが、特に学校概要の説明会を実施するため、中学生及びその保護者等に向けて公開日として広報（学校ホームページに掲載するとともに、学区及び隣接学区の入学実績のある中学校へ通知）する日を年間9回設定した。中学生及びその保護者等の参加は、延べ1,350人で昨年度より100人以上増えたが、一方で、1回の参加人数が100人を超えると、2グループに分けてローテーションを組まざるを得ないだけでなく、参加者が多すぎて授業に支障があると指摘する声もあった。

平成24年度から、学校説明の時間に放送部の生徒が作成した学校紹介DVDを上映したり、学校図書館を開放したりしている。また、従来から実施している参加者へのアンケートは教員全員にフィードバックしている。土曜オープンスクールの実施方法や授業内容は、アンケートで概ね肯定的な回答を得ているが、授業内容や生徒の服装、休み時間の様子など、生活指導上の参考になる意見も多かった。

6 実施上の課題及び解決策等

(1) 実施日

従来から土曜オープンスクールの実施日と生徒の振替日をできるだけ近くに設定するよう努めてきたが、どうしても期日が離れてしまった。また、振替日は定期テストの午後等に設定したため、多くの生徒にとって、振り替えているという感覚は現実的には乏しいと思われる。

(2) 生徒の負担軽減

毎年、高体連の日程を参考にして土曜オープンスクールの実施日を設定してきたが、高体連主催の大会がない日であっても、その他の公式試合が組まれることにより、一部の運動部の生徒が数回公欠する現状は変わっていない。復習・演習中心の授業内容にしている科目もあるが、大半は通常の授業である。公欠者には個別に対応（プリントを配布する、質問を受けるなど）している。

年度	実施回数	公欠した生徒の人数				
		総数	1回あたりの平均	1回1学級あたりの平均	最多の回(実施日)	最多の回1学級あたりの平均
22	11	501	45.5	1.9	92 (5/1)	3.8
23	17	964	56.7	2.4	151 (5/7)	6.3
24	17	676	39.8	1.7	97 (5/12)	4.0
25	17	745	43.8	1.8	191 (9/21)	8.0
26	17	640	37.6	1.5	143 (11/15)	6.0

・公欠者が多い部活動（テニス部、弓道部）

・26年度11/15の内訳：明治神宮大会（野球部、吹奏楽部、応援指導部等63人）、弓道部新人戦51人、その他29人

(3) 教員の負担軽減

土曜日に勤務を命じる教員は、非常勤、再任用の教員以外全員である。振替方法は基本的には昨年度までと変更ないが、振り替えた時間帯に実際に休めないということをなくすために、ア～ウの工夫をした。その結果、「勤務の振替が取りにくい」と回答する教員が昨年度の83%から53%へと減少した（5(2)イの表参照）。さらに改善するためには、授業時間割の工夫などとともに、教員が計画性を高めるなど、意識を改革する必要がある。

ア 昨年度同様、各教員の授業時間割の作成に際し、4時間の振替を取りやすいように、2週（A週＋B週）に最低1日は勤務時間内の前後に4時間以上の空き時間帯を設定するよう配慮した。

イ 昨年度は、土曜オープンスクール分の振替申請を年度当初にしていたが、今年度は各学期当初に改めた。変更希望も受け付け、その希望をもとに振替日を弾力的に修正した。また、振替日は必ず勤務しないよう、打ち合わせ等で管理職から何度も依頼した。

ウ 振替は、出張や休暇とともに毎日職員室中央のホワイトボードに記載して、該当者に管理職から確認の声掛けを行った。

7 考察

本校に対する生徒や保護者の期待に応えるためには、質の高い授業、知的好奇心を喚起する授業の実施とともに、授業時間の確保への努力を続けることが必要であり、一定数の土曜日を授業日とすることが可能となっていることの意味は大きい。さらに、文武両道を目指す本校にとって、平日の放課後や帰宅後の時間を確保し、生徒に「授業・部活動・家庭学習」の生活リズムを確保させやすいことから土曜オープンスクールを実施する意義は大きいと言える。

また、公開授業とすることで、本校志望の中学生やその保護者が都合のよい時期に複数回参加することができるだけでなく、本校教員及び生徒にとっても、程よい緊張感を持って授業に臨めるというプラス面がある。

8 その他

本年度、土曜オープンスクールの可能性を探る新たな試みとして、「土曜オープンスクールの外部人材・施設の活用」を学校経営重点事業のテーマとし、3教科において3～8時間の授業を実施した。その内容を他校の教員や小中学校の教員に公開することができたことに加えて、外部機関との連携によって授業内容の深化を図ることができた。